

古代東海道・鹿嶋路の遺構を訪ねて（高浜湊、中津川遺跡、常陸国分寺）

日 時 ■ 2009 年10月 3日（土）13:45～17:00頃

集 合 ■ 常磐線／高浜駅（改札外）※上野発 12:12 勝田行が直通。12:30 フレッシュひたちは土浦で乗換え。

コース ■ 高浜駅 ～ 高浜神社（鹿島神宮遙拝所）～ 高浜湊（旧家・倉庫群）～ 舟塚山古墳（前方後円墳）
～ 中津川遺跡（推定古代道遺構）～ 田崎遺跡（古代住居跡）～ 水戸街道・府中宿（府中酒造、
香丸資料館ほか）～ 常陸国分寺 ～ 常陸国分尼寺跡 ＜歩行約8キロ＞

共 催 ■ NPO（特定非営利活動法人）全国街道交流会議

その他 ■ 小雨決行、大雨の場合は延期します。判断がつかない場合は、主催者までご連絡下さい。

連絡先 ■ 大竹 亮（NPO全国街道交流会議理事、旧街道ウォーク代表）

■今回の活動について

古代東海道の終着点である常陸国府（石岡）で、古代道と思われる遺構が発掘されました。国道6号バイパス工事に伴う中津川遺跡です。古代道路の構造を理解できる非常に良好な断面や表面が見て取れます。

（茨城県教育財団のページ） <http://www.ibaraki-maibun.org/03iseki/02ishioka/02ishioka.htm>

おそらく、常陸国府（石岡）から高浜（霞ヶ浦に面する湊）を経て、鹿島神宮、香取神宮、上総国府へと続いていた古代東海道の別ルート（鹿嶋路）ではないかと思われます。現在歩いている古代東海道本道が国府を最短で結ぶ「行政の道」とすれば、鹿嶋路は香取・鹿島の両神宮を通る「宗教の道」ともいえるでしょう。

2006 年 12 月の古代東山道保存遺構と武蔵国分寺を歩く企画に続き、今回は、古代東海道発掘遺跡と常陸国分寺を訪ねる企画を用意しました。あわせて、往時の湊町の面影を残す高浜の町や、伝統商家が今も軒を並べる（しかし全く観光地化されていない）府中宿を散策し、蔵のギャラリー兼カフェなどにも立ち寄ってみましょう。なお、当日は、全国一の土浦花火大会も開催されます。よろしければお帰りにどうぞ。

* * * *

■古代の道について

古代官道：奈良・平安の中央集権国家時代には、都から全国に向けて7つの「官道」が整備されました。約16kmごとに駅家が設けられ、幅員6～12mの立派な側溝付舗装道路がほぼ一直線の最短距離で各地の国府を結んでいたとされています。その姿は、後代の鎌倉街道や江戸時代の街道よりもはるかに壮大です。従来は記録文書から推定するしかありませんでしたが、近年では各地で発掘等による発見が続き、その実態が判明しつつあります。

古代東海道：都から海沿いに関東に至る行政圏で、官道の名称でもあります。古代東海道の道筋は時代によって変遷し、初期の道筋は、三浦半島から房総半島へ東京湾を渡っていました。これに対し、相模国府（平塚）、武蔵国府（府中）、下総国府（市川）を経て常陸国府（石岡）へ至っていたのが中期の道筋です。当会では、1999 年～2001 年にかけて初期と後期の古代東海道の一部を歩いていますが、昨年からは中期のルートを探索しています。（なお、今回の鹿嶋路は初期のものです）

■沿道の見どころ

高浜神社●高浜の町の入口にあり、国司が鹿島神宮にお参りする際、天気が悪く船で霞ヶ浦を渡航できないときは、ここから遙拝した。社殿は後世のものながら立派な茅葺。

高浜湊●霞ヶ浦に面した常陸国府（後の府中宿）の外港。道に面して伝統商家、裏には大型倉庫群が並ぶ。

船塚山古墳●全長 180m、関東第二の規模の前方後円墳。頂上からは近隣が一望できる。

中津川遺跡●国府と高浜湊を結ぶ道路遺構（想定古代道）が、長さ 180mにわたって発掘された。良好な断面形状は、堅い路面に轍の跡、浅い側溝など、当時の道路築造技術を伝える貴重なもの。

田崎遺跡●縄文時代の土器から、奈良時代の掘立柱建物、平安時代の縦穴住居跡までが出土した重層遺跡。

府中酒造●水戸街道・府中宿の入口にある老舗の商家。銘酒・府中誉の醸造元で、酒蔵も一部開放。

このほか、府中宿には伝統商家の建物がかなり多く残る。

常陸国分寺・国分尼寺跡●国分寺跡は府中宿の北端にあり、同名の寺が残る。その北の国分尼寺跡は整地されて基壇の土盛など見られ、寺全体のかかなり広い敷地に往古の姿を想像できる。

香丸資料館（茶房土蔵）●商家の蔵を転用したギャラリー。カフェも併設され、ゆったりとした時間が流れる親密なスペース。近くの蕎麦処・小野越も、小さいながら居心地のよい隠れ家。